

落サント、三浦策ヲ廻シケル、

〔地理總鑑〕中津城

城地を扇ケ城と號す、平城也、往昔より小館は有之といへども、城と云にもあらず、天正十五年、黒田官兵衛孝高居城とす、略中東は高田津、西は今井津也、其中央に有故に中津と云、此城海濱に據り、前後に川を帶總堀繞郭、海に續たり、城門に假橋を懸け、往來の道とし、大船出入に便よし、大門三方に設たり、遠干かたにしてよき城也、

莊保

〔志賀文書〕筑前國嘉摩郡總別莊内佐古名、豊前國上毛郡内本今吉名、吉木壹丁、同國下毛郡安恒名、同國宇佐莊内葎屋敷等、并田地豊後國安岐郷内諸田名、松武名、諸田名、内龜丸名、田畠屋敷、山野、荒野等、右所々宇佐氏女當知行、不可有相違者、天氣如此、悉之以狀、

建武元年五月一日

式部大丞 花押

〔住吉神社文書〕寄進 筑前國一宮原書此

豊前國河崎莊地頭□□

右今度之義兵、遂本□□祈天下之安寧、家門□繁昌、所寄進如件、

建武三年三月八日

〔太宰管内志豊前四〕門司八幡社

尊氏卿寄附狀に寄附門司關八幡宮、豊前國荻田莊内光國保地頭職事、右爲祈義兵之成就、黎民之安全、當家之繁昌、子孫之長久、所寄附如件、建武三年卯月十一日、源朝臣判、

〔二階堂文書〕下 隱岐三郎左衛門尉行雄法師法名

可令早領知薩摩國阿多郡北方田布施郷半分、豊前國金田庄内金田村半分地頭職事、右任代々下文、并延慶二年六月廿九日外題安堵可領掌之狀如件、以下、